

投資戦略フェア 2025

ミニセミナー④

今何かと話題のオプション取引。
オプション先進国米国では個人投資家が個別
株オプションをどのように使っているのかを知って投
資の幅を広げよう。

守屋 史章

個別株オプション 愛称「かぶオプ」

日本の個別株オプションでもできる！

配当＋第2のインカム

「カバードコール」

(ターバイからの)

不確実なキャピタルゲインより安定確実のインカムゲイン狙い

配当 + 第2のインカム
オプションプレミアム
(ターバイ・カバコ)

2024年8月5日に日本郵船が増配発表 = 130円

まずは株を買うためにターバイをやる

⇒株になったら配当 + カバードコール売り

⇒株にならなかつたら再度ターバイ

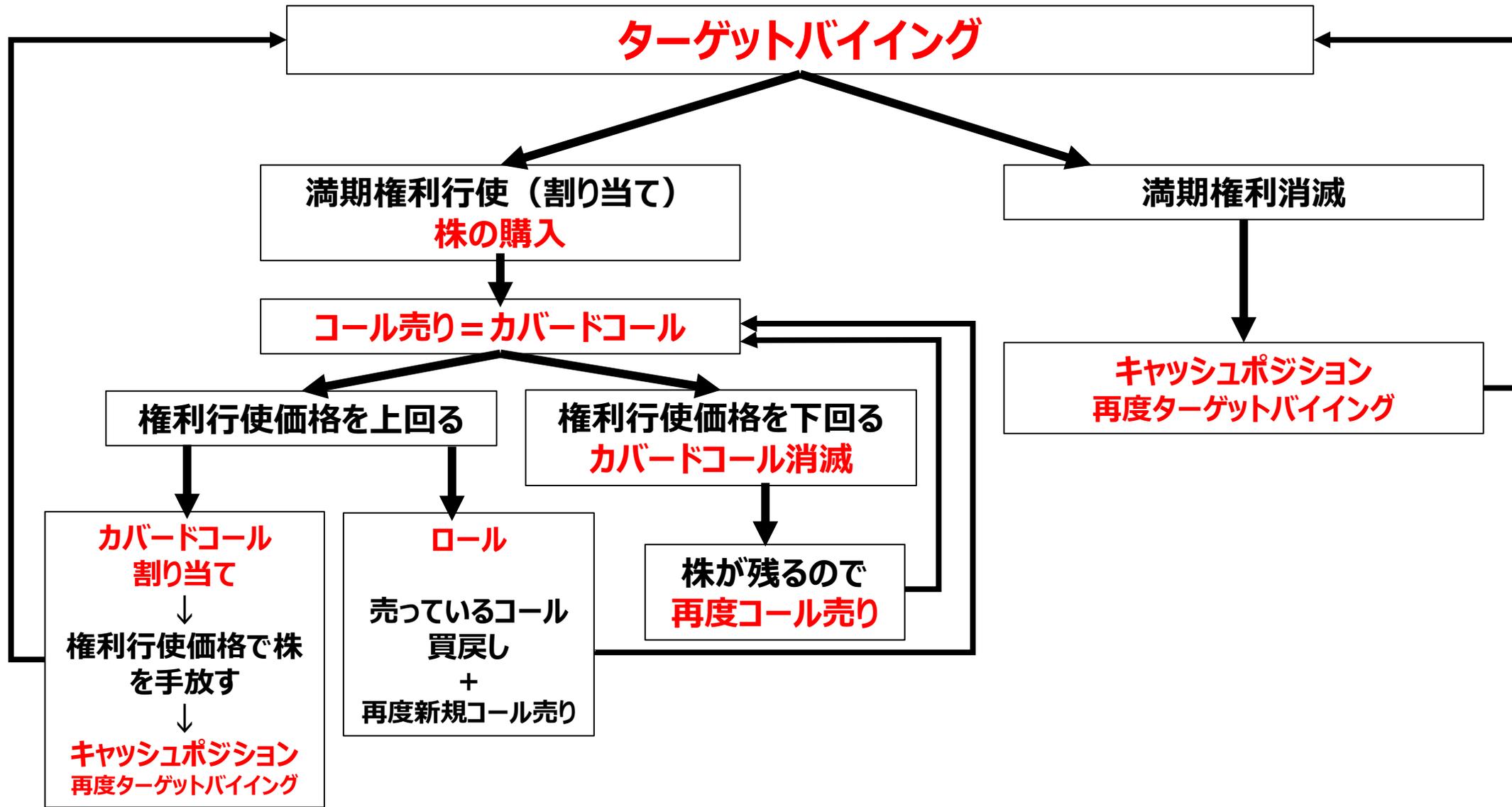
(配当を織り込んでいるのでオプション価格が高くなっている)

配当 + 第2のインカム

オプションプレミアム
(ターバイ・カバコ)

<ホイール戦略>

(ターバイ→カバコ→ターバイ)



1-1 2ヶ月計画～まず株を買う代わりにP4800を売る＝ターバイ（9月第2週木曜日に株を買ってもよい）



1-2 結果 9/12に4,800円を割り込んでいたので株を4,800円で買うことになる = 配当狙いで株を保有

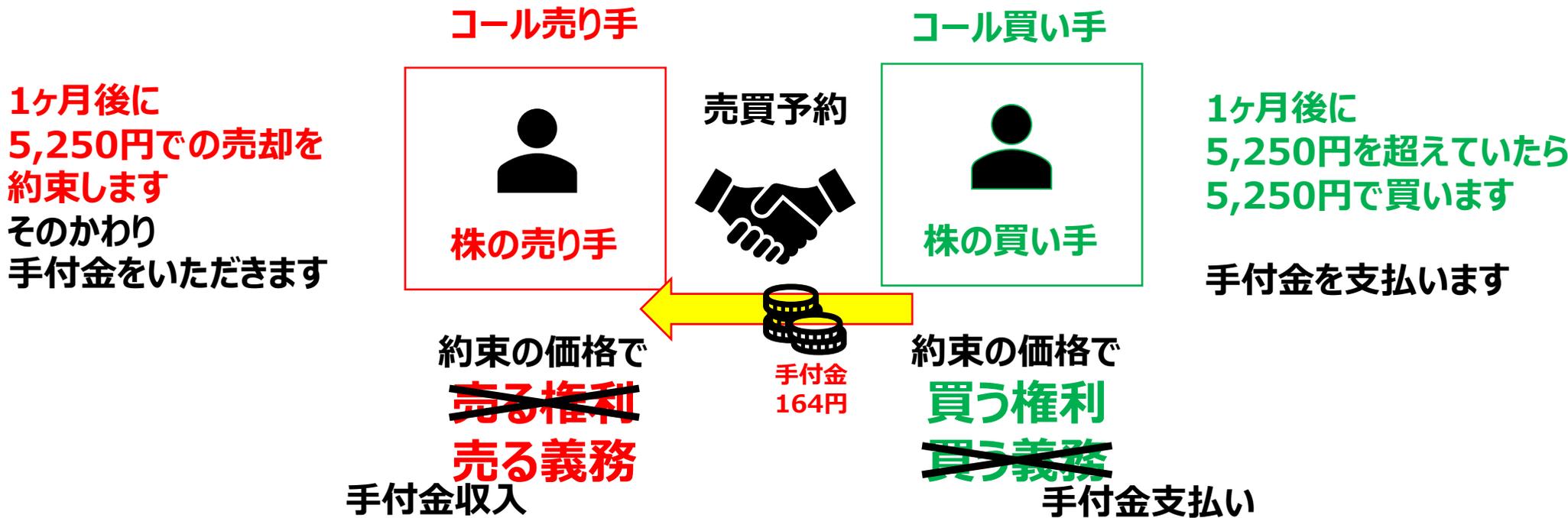


2-1 配当権利付き日までは保有 利食い水準のコールを売る (カバードコール売り)

**C5250売り
164円**



コールオプションの場合



株の買い手は権利だけ

株の売り手は義務だけ

手付金支払い

手付金収入

カバードコール戦略

**自分の保有する株を売却する義務を負担する（＝コール売り）ことで
お金をもらう作戦**（⇔コールの買い手は権利を得るためにお金を払う）

① **100株※を保有**

② **売却（利食い）価格を権利行使価格とするコールを売る（＝Covered Call Writing）**
⇒その権利行使価格を超えるキャピタルゲインは得られないが、その分先にお金（プレミアム）
がもらえる。確実なプレミアムで良しとする投資方法

※個別株オプションは1単位あたり100株相当

※売る = write

2-4 結果 配当Get！ 株価は下落してC5250も無価値に

C5250 無価値
カバコインカム
164円の利益 (+16.4万円)



3-1 株が残ったので再度カバードコールへ 購入金額と同じ価格の権利行使価格のコールを売るC4800売り



3-2 結果 C4800売り割当 = 株をコール売りの義務として売却⇒キャッシュポジションへ



配当+第2のインカム

オプションプレミアム

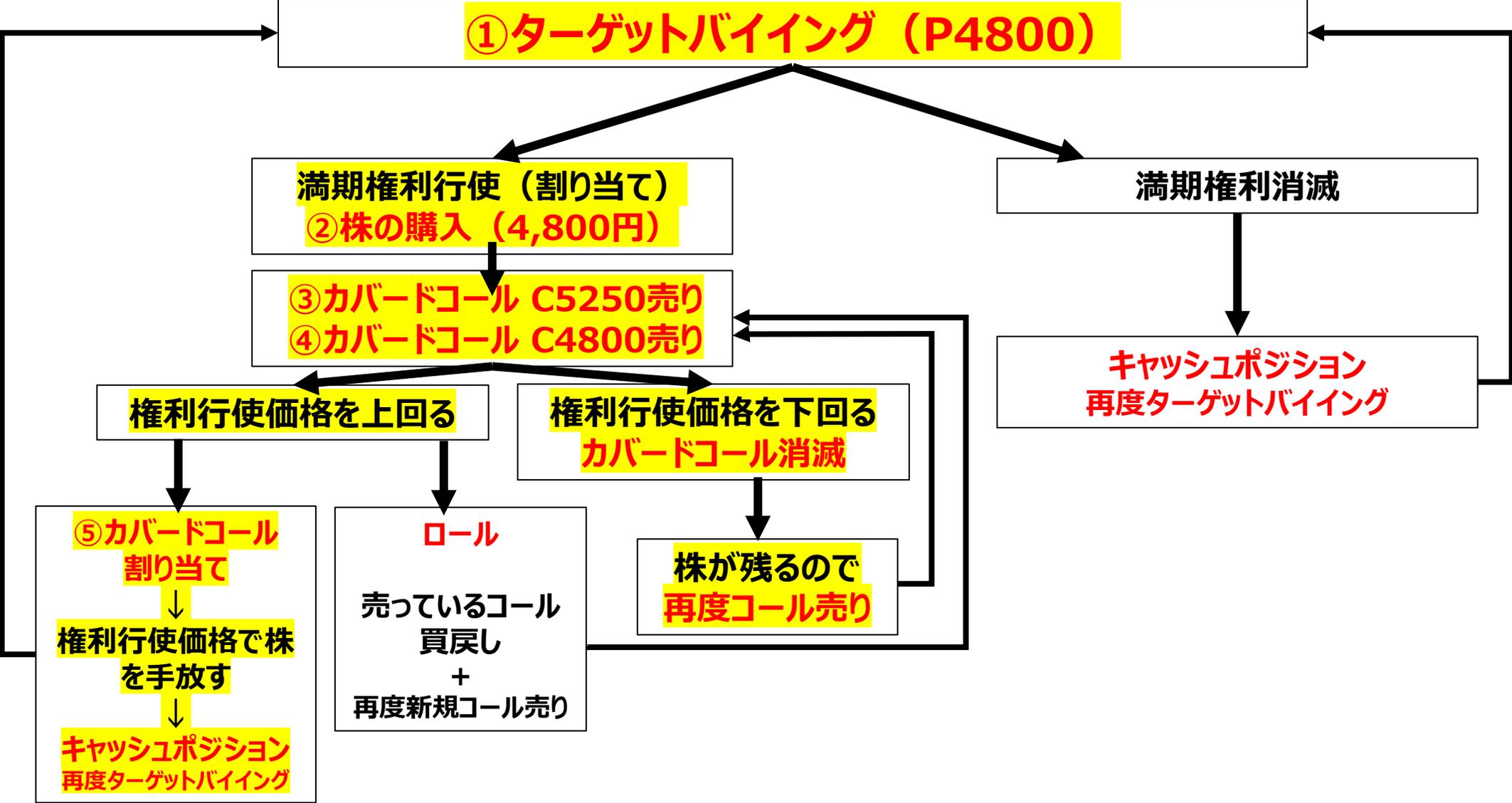
- ①8/14にP4800 (160円) を売る
- ②9/12割当 (=株購入) (ターバイ= +160,000円)
- ③9/27にC5250 (164円) を売る⇒10/11無価値 (カバコ= +164,000円)
9/27配当を受け取る権利確定 (配当= +130,000円)
- ④10/11C4800 (221.5円) を売る
- ⑤11/8割り当て=株を売却 (キャピタルゲインは0) (カバコ= +221,500円)

TR = 675,500円

必要資金4,800,000円

ROI = $675,500 \div 4,800,000 \approx 14.1\%$ (3ヶ月)

ターバイ⇒カバコ



<オプション取引における一般的な注意点>

- ・コールオプションを買った場合、予想通り上昇しても、当初の支払額以上に買いオプションの権利行使価格を上回らないと利益にはなりません。買いオプションの権利行使価格を超えなければ、オプション買いに支払った額のすべてを失います（差金決済型のオプションの買いの場合は支払額を超えて損失になることはありません）。プットオプションを買った場合、予想通り原資産が下落しても、当初の支払額以上に権利行使価格を割り込まなければ利益にはなりません。権利行使価格を割り込まなかった場合、支払った額のすべてを失います（差金決済型のオプションの買いの場合は支払額を超えて損失になることはありません）。
- ・満期まで保有せずに途中で反対売買することも可能です。なお期中の損益は満期損益とは異なり、複雑な計算が必要になります（期中損益計算はブラックショールズモデルなど価格算定モデルが必要になります）。
- ・権利行使価格を大きく上回った場合（ディーピンザマネーの状態）、流動性がなくなり反対売買することが難しくなる場合があります（なお、同じ権利行使価格のプットオプションを利用して損益を固定することが可能です。詳しくはオプショントレード普及協会のブログ等で解説しています）。
- ・複数の建玉をする場合は、原則として流動性のない方をまず約定させ、もう一方の玉は即、板にぶつけて約定させます。

<当資料における注意事項>

※解説においては、筆者の独自の視点で学習目的のために事例を簡略化する場合があるため、資料の中で紹介される事例は実際の相場とは異なる場合があります。取引事例についても、完全に再現しているものではなく、かつ、その有効性を担保するものではありません。また、本資料に含まれる記述や情報については十分精査しておりますが、その内容に関して筆者は一切責任を負いません。

※記載の結果についてはシミュレーション上のものであり、確実にそのような結果が出たことを示すものではありません。また、相場状況によっては損失が出る可能性も十分にあり得ます。当該シミュレーション結果が解説の中で説明した戦略の優位性や利益を保証するものではありません。商品の特性、取引の仕組み、リスクの存在、手数料等を十分にご理解いただいたうえで、ご自身の投資判断と責任で取引いただくようお願いいたします。

※株式取引、先物取引、オプション取引においては、株式相場の変動等によって損失が生じるおそれがあります。お取引に際しては、あらかじめお取引先の金融商品取引業者等より交付される契約締結前交付書面等を十分にお読みいただき、商品の性質、取引の仕組み、リスクの存在、手数料等を十分に御理解いただいたうえで、御自身の判断と責任でお取引いただきますようお願い申し上げます。